

# **KashiwaGeeks**

## **ユーザーズ・ガイド**

Ver. 0.4

作成日 2017.12.13

# Application クラス

Application クラスは Arduino の新たなアプリケーションフレームワークで、

- 1) 省電力のためのス各種リープ
- 2) ウォッチドックタイマーによるスリープからの復帰
- 3) INT0、INT1 割り込み処理
- 4) タスク実行管理機能

を提供する。

## 1) **#include <KashiwaGeeks.h>**

Application フレームワークが使用できるようになる。

## 2) **void start(void)**

Arduino プログラムで使用される `setup()` に代わる関数。  
フレームワークが提供する初期化関数でプログラム起動時に一回だけ実行される。  
この関数内に初期設定用のプログラムを記述する。

## 3) **void CosoleBegin(uint32\_t baudrate)**

`Serial.begin()` 関数に代わる関数でコンソールのボーレイトを設定する。

## 4) **void ConsolePrint( format, ... )**

`Serial.print()` 関数に代わる関数で、可変個の変数を指定されるフォーマットでシリアルポートに出力する。

## 5) **void DebugPrint( format, ... )**

`ConsolePrint()` と同様。

## 6) **void DisableConsole(void)**

`ConsolePrint()` の出力を停止する。

## 7) void DisableDebug(void)

DebugPrint()の出力を停止する。  
DisableDebug() かつ DisableConsole() のときは消費電力削減のため UART0 のパワーが オフとなる。

## 8) void LedOn(void)、LedOff(void)

Arduino の LED を点灯または消灯させる。

## 9) void sleep(void)

アプリケーションがスリープする直前にこの処理が実行される。  
スリープする前に実行したい処理をこの関数内に記述する。

## 10) void wakeup(void)

アプリケーションがスリープから戻ったときにこの処理が実行される。

## 11) void int0D2(void)

デジタルピン 2 が HIGH になった時にこの処理が実行される。  
実行後はスリープ状態に戻る。

## 12) void int0D2(void)

デジタルピン 3 が HIGH になった時にこの処理が実行される。  
実行後はスリープ状態に戻る。

## 13) void setWDT(uint8\_t interval)

ウォッチドックタイマー値を設定する。 デフォルトは 1 秒となっているが、更に電力消費を抑えるために 2, 4, 8 秒のいずれかに設定を変更する。

## 14) TASK\_LIST = { TASK( 関数、開始時間、繰り返し時間), ... , END\_OF\_TASK\_LIST };

反復して実行したい処理のリストで、このリストで指定した関数を繰り返し時間(秒)枚に実行される。 開始時間を指定して最初に実行する時間(秒)をずらすことができる。

**15) PORT\_LIST = { PORT( ポート、関数), ... , END\_OF\_PORT\_LIST };**

LoRaWAN からのダウンリンクデータのポートに従って、実行する処理を指定するために使用する。 ADB922S クラスの checkDownLink()メソッドがこれを使用する。

**16) ReRun(関数, uint32\_t 開始時間)**

開始時間後に指定する関数を実行する。

## ADB922S クラスとメソッド

ADB922S は TLM922S デバイスを使用する LoRaWAN 用の Arduino シールドを意味している。このデバイスは SenseWay、Soracom とともに使用しており、このプログラムはいずれのシールドにも使用できる。

### メソッド

#### 1) **bool begin(uint32\_t baudrate = 9600, uint8\_t retryTx = 1, uint8\_t retryJoine = 1 );**

機能: ADB922S の初期化を行う。

引数: uint32\_t baudrate シリアル入出力の速度、9600, 19200, 57600, 115200 が有効  
uint8\_t retryTx 送信リトライ回数を設定する。 0 から 255 回が有効  
uint8\_t retryJoine Joine のリトライ回数を設定する。

戻り値: 正常完了ならば true、 速度設定失敗ならば false。

#### 2) **bool connect(void);**

機能: LoRaWAN に接続する。 接続に必要なキーが保存されていなければ、joine を試みる。

引数: なし

戻り値: joine していれば true。 キーが保存されていない上、joine を begin() で設定した retryJoine 回数実行しても joine できなければ false。

#### 3) **bool reconnect(void);**

機能: LoRaWAN に接続する。 接続に必要なキーが保存されていても、joine を試みる。

引数: なし

戻り値: joine できれば true。 joine を begin() で設定した retryJoine 回数実行しても joine できなければ false。

#### 4) **uint8\_t setDr(LoRaDR);**

機能: DR 値を設定する。 DR 値によって最大ペイロード長も定まる。

引数: DR 値、dr0, dr1, dr2, dr3, dr4, dr5

戻り値: ペイロード長、 設定エラーの場合 -1。

**5) int sendString(uint8\_t port, bool echo, const \_\_FlashStringHelper\* format, ...);**

機能: 文字列データを送信する。 ダウンリンクデータを受信しているか、11) の getDownLinkData(void)で確認できる。

引数: uint8\_t port 送信したデータは port で指定されるアプリケーションに送られる。  
 bool echo true ならば送信データをコンソールに表示する。  
 const \_\_FlashStringHelper\* format 送信データフォーマット  
 ... 可変個数の送信データ フォーマットは printf()で使用するものと同じ

戻り値: 正常完了で LoRa\_RC\_SUCCESS。  
 送信データが長すぎる場合は LoRa\_RC\_DATA\_TOO\_LONG  
 joinしていない場合は LoRa\_RC\_NOT\_JOINED  
 その他のエラーの倍は LoRa\_RC\_ERROR

**6) int sendStringConfirm(uint8\_t port, bool echo, const \_\_FlashStringHelper\* format, ...);**

機能: 文字列データを送達確認付きで送信する。 ダウンリンクデータを受信しているか、11) の getDownLinkData(void)で確認できる。

引数: uint8\_t port 送信したデータは port で指定されるアプリケーションに送られる。  
 bool echo true ならば送信データをコンソールに表示する。  
 const \_\_FlashStringHelper\* format 送信データフォーマット  
 ... 可変個数の送信データ フォーマットは printf()で使用するものと同じ

戻り値: 正常完了で LoRa\_RC\_SUCCESS。  
 送信データが長すぎる場合は LoRa\_RC\_DATA\_TOO\_LONG

**7) int sendPayload(uint8\_t port, bool echo, Payload\*);**

機能: ペイロードを送信する。 ダウンリンクデータを受信しているか、11) の getDownLinkData(void)で確認できる。

引数: uint8\_t port 送信したデータは port で指定されるアプリケーションに送られる。  
 bool echo true ならば送信データをコンソールに表示する。  
 Payload\* ペイロードのポインター

戻り値: 正常完了で LoRa\_RC\_SUCCESS。  
 送信データが長すぎる場合は LoRa\_RC\_DATA\_TOO\_LONG  
 joinしていない場合は LoRa\_RC\_NOT\_JOINED  
 その他のエラーの倍は LoRa\_RC\_ERROR

**8) int sendPayloadConfirm(uint8\_t port, bool echo, Payload\*);**

機能: ペイロードを送達確認付きで送信する。ダウンロードデータを受信しているか、11) の getDownLinkData(void)で確認できる。

引数:   uint8\_t port   送信したデータは port で指定されるアプリケーションに送られる。  
       bool echo       true ならば送信データをコンソールに表示する。  
       Payload\*       ペイロードのポインター

戻り値: 正常完了で LoRa\_RC\_SUCCESS。  
       送信データが長すぎる場合は LoRa\_RC\_DATA\_TOO\_LONG

**9) Payload\* getDownLinkPayload(void);**

機能: 前回送信時のダウンロードデータを Payload クラスとして取得する。

引数: なし

戻り値: 前回の送信時にダウンロードデータがなければ、0 が、データがあればペイロードのポインター。

**10) uint8\_t getDownLinkPort( void);**

機能: 前回送信時のダウンロードデータからポートを取得する。

引数: なし

戻り値: ポート, 0 は受信データなし。

**11) String getDownLinkData(void);**

機能: 前回送信時のダウンロードデータからポートを除く文字データを取得する。  
       データがなければ空文字列が返される。

引数: なし

戻り値: ポートを除く文字列データ、データ無しは空文字列。

**12) void sleep(void);**

機能： 無期限のディープスリープとなる。 D7 ピンの立ち上がりでスリープから復帰する。

引数： なし

戻り値： なし

**13) void wakeup(void);**

機能： 無期限のディープスリープから復帰する。

引数： なし

戻り値： なし

**14) void getHwModel(char\* model, uint8\_t length);**

機能： TLM922S のモデル名を取得する。

引数： char\* model   モデル名を返すアドレスを指定する。  
uint8\_t length   取得するモデル名の文字数。

戻り値： 引数   model に指定文字数分のモデル名が返される。

**15) void getVersion(char\* version, uint8\_t length);**

機能： TLM922S のバージョンを取得する。

引数： char\* version   バージョンを返すアドレスを指定する。  
uint8\_t length   取得するバージョンの文字数。

戻り値： version に指定文字数分のバージョンが返される。

**16) void getEUI(char\* eui, uint8\_t length);**

機能： TLM922S のデバイス EUI を取得する。

引数： char\* eui   デバイス EUI を返すアドレスを指定する。  
uint8\_t length   取得する EUI の文字数。

戻り値： version に指定文字数分のバージョンが返される。



**17) uint8\_t getMaxPayloadSize(void);**

機能: プログラミングで設定した送信可能ペイロード長を返す。  
KashiwaGeeks ライブラリ ADB922S.h の 45 行目の LoRa\_MAX\_PAYLOAD\_SIZE  
で指定される。

引数: なし

戻り値: 送信可能ペイロード長 Max 255 バイト

**17) bool setTxRetryCount(uint8\_t retry);**

機能: データ送信リトライ回数を設定する。 0～255 が有効。

引数: uint8\_t retry 送信リトライ設定回数。

戻り値: 正常完了で true。設定失敗で false

**18) uint8\_t getTxRetryCount(void);**

機能: 設定されている送信リトライ回数を取得する。

引数: なし

戻り値: 送信リトライ回数

**19) void checkDownLink(void);**

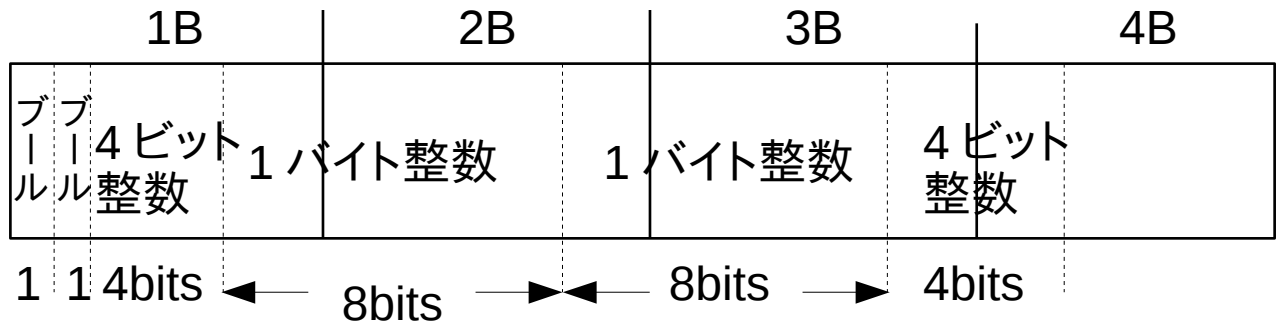
機能: DownLink データがあればそのポートを取出し、PORT\_LINK で指定されたポートと  
紐付けられたコールバック関数を実行する。

引数: なし

戻り値: なし

## Payload クラスとメソッド

Payload クラスは LoRaWAN のペイロードを表す。LoRaWAN のペイロードは最長でも 242 バイトである。通信距離を伸ばすためにペイロードは 11 バイトあるいは 53 バイトにする必要がある。このため、Payload クラスでは 1 ビットの bool や 4 ビット、1 バイト、2 バイト、4 バイトの整数をバイトの境界を跨いで表現できるようにしたものである。



### コーディング例

// 4 バイトのペイロードを生成してデータを格納する

```
Payload pl(4);

pl.set_bool(true);
pl.set_bool(false);
pl.set_int4((int8_t) -4); // -8 ~ 7
pl.set_int8((int8_t) 120);
pl.set_uint8((uint8_t) 250);
pl.set_uint4((uint8_t) 15);

bool b1 = pl.get_bool();
bool b2 = pl.get_bool();
int8_t i41 = pl.get_int4();
int8_t i81 = pl.get_int8();
uint8_t u81 = pl.get_uint8();
uint8_t u41 = pl.get_uint4();
```

ペイロードからデータを取り出す場合は、格納した順番で取り出していく。

15 文字までの文字列ならば `set_string(String); String get_string();` が使用できる。  
15 文字を超える場合は、Payload は使用できない。

## データ格納メソッド

```
void set_bool(bool);  
void set_int4(int8_t);  
void set_int8(int8_t);  
void set_int16(int16_t);  
void set_int32(int32_t);  
void set_float(float);  
void set_uint4(uint8_t);  
void set_uint8(uint8_t);  
void set_uint16(uint16_t);  
void set_uint32(uint32_t);  
void set_string(String);
```

## データ取出しメソッド

```
bool      get_bool(void);  
int8_t    get_int4(void);  
int8_t    get_int8(void);  
int16_t   get_int16(void);  
int32_t   get_int32(void);  
float    get_float(void);  
uint8_t   get_uint4(void);  
uint8_t   get_uint8(void);  
uint16_t  get_uint16(void);  
uint32_t  get_uint32(void);  
String    get_string(void);
```

## ADB922S アプリケーション・リファレンスコード

```
#include <KashiwaGeeks.h>

ADB922S LoRa;    // create ADB922S instance.

//=====
//    Initialize Device Function
//=====
#define BPS_9600      9600
#define BPS_19200     19200
#define BPS_57600     57600
#define BPS_115200    115200

void start()
{
    /* Setup console */
    ConsoleBegin(BPS_57600);
    //DisableConsole();
    //DisableDebug();

    ConsolePrint(F("**** Start****\n"));

    /* setup Power save Devices */
    //power_adc_disable();    // ADC converter
    //power_spi_disable();    // SPI
    //power_timer1_disable(); // Timer1
    //power_timer2_disable(); // Timer2, tone()
    //power_twi_disable();    // I2C

    /* setup ADB922S */
    if ( LoRa.begin(BPS_19200) == false )
    {
        while(true)
        {
            LedOn();
            delay(300);
            LedOff();
            delay(300);
        }
    }

    /* set DR. therefor, a payload size is fixed. */
    LoRa.setDr(dr3); // dr0 to dr5

    /* join LoRaWAN */
    LoRa.reconnect();

    /* setup WDT interval to 1, 2, 4 or 8 seconds */
    //setWDT(8); // set to 8 seconds
}
```

```

//=====
//      Power save functions
//=====
void sleep(void)
{
    LoRa.sleep();
    DebugPrint(F("LoRa sleep.\n"));
}

void wakeup(void)
{
    LoRa.wakeup();
    DebugPrint(F("LoRa wakeup.\n"));
}

//=====
//      INT0, INT2 callbaks
//=====
void int0D2(void)
{
    ConsolePrint(F("\nINT0 !!!\n"));
}

void int1D3(void)
{
    ConsolePrint(F("\nINT1 !!!\n"));
}

//=====
//      DownLink Data handler
//=====
void port14(void)
{
    ConsolePrint("%s\n", LoRa.getDownLinkData().c_str());
    LedOn();
}

void port15(void)
{
    ConsolePrint("%s\n", LoRa.getDownLinkData().c_str());
    LedOff();
}

PORT_LIST = {
    PORT(14, port14), // port & callback
    PORT(15, port15),
    END_OF_PORT_LIST
};

```

```
//=====
//  Functions to be executed periodically
//=====

#define LoRa_fPort_TEMP 12
float bme_temp = 10;
float bme_humi = 20;
float bme_press = 50;

short port = LoRa_fPort_TEMP;

int16_t temp = bme_temp * 100;
uint16_t humi = bme_humi * 100;
uint32_t press = bme_press * 100;

/*-----*/
void task1(void)
{
    char s[16];
    ConsolePrint(F("Temperature: %s degrees C\n"), dtostrf(bme_temp, 6, 2, s));
    ConsolePrint(F("%%RH: %2d%%s%\n"), bme_humi);
    ConsolePrint(F("Pressure: %2d Pa\n"), bme_press);

    disableInterrupt(); // INT0 & INT1 are disabled

    Payload pl(LoRa.getMaxPayloadSize());
    pl.set_int16(temp);
    pl.set_uint16(humi);
    pl.set_uint32(press);

    LoRa.sendPayload(port, true, &pl);
    LoRa.checkDownLink();

    enableInterrupt(); // INT0 & INT1 are enabled
}

/*-----*/
void task2(void)
{
    ConsolePrint(F("\n Task2 invoked\n\n"));
    disableInterrupt(); // INT0 & INT1 are disabled
    LoRa.sendStringConfirm(port, true, F("%04X%04X%08X"), temp, humi, press);
    LoRa.checkDownLink();
    enableInterrupt(); // INT0 & INT1 are enabled
}

//=====
//      Execution interval
//  TASK( function, interval by second )
//=====

TASK_LIST = {
    TASK(task1, 0, 15),
    TASK(task2, 8, 15),
    END_OF_TASK_LIST
};

/* End of Program */
```